

慶応元年九月七日より慶応元年九月八日まで

P8311313 right

馬車代 別口三百フランク□藏医尺拝料拾貳度(壹度分廿五フランクづつ、当地在留

亭(ブロイセン)コンシユル来り

自□砲銃買入方の義、頼聞し旨、製紙所、並合葉製所(過日一見)地中□水流し所(過日一日)管轄
(対食)首長ヘラルトを招き右場所にて一見の謝として対食しウエルニーも配食す、第十時過

一同

退散帰時に臨み雨勢強に付、銘々車を命せり、閑適(※)、眠醒呼杯醉炷香清幽

自得養生方類雲流動容無定。夕日横斜影漸長財乏容易(等閑)買山

困身閒早晚為詩狂心情遂似逃名冷笑厭看城邊車馬□

八日午 晴風午後陰夕前雨又晴

濱五郎儀御買上げ器械の義に付、橋本(釜)旅亭(メラボーホテル)へ行く、楽源兩人右同旅亭へ

私の尋問

として行く、ランベルト義ダブル港随荷運輸管轄首長の由、某壺一人を携え来り

P8311313 left

同港より荷品津出し等有し候はば、前使節の用事とも弁し候事故、□らす、其命有し度既に
同所より荷物出船の謀有し趣承りし由等縷々聞、且從者の死を□する意を帯び

来り、外国ミニストル、ロアンデリスへ談判中岡士両事件の挨拶促し、並ヘラルト返翰の

謝辞を加へ

一書遣す、且へ新聞報告願の義、楽太より書翰遣す、楽源濱三人黄昏を過ぎ一同帰り来り
し器械談筋の義、漠として弁せず、蘭より伝信機便を以、右器械の義に付、諸事引受し
蘭人インゼニール明日当府へ来着の段申越旨、濱申聞る、橋本(釜)尋問し初て面す、挙□
言語並衣服等の義、筆記を厭う、右同人と共に楽源濱遊歩に度旨也、何れも旧友の
由然ればともに濱は必ずべし、源の軽挙もまた□を伝ず、何ぞ楽の重からざる、本日の
一挙粗、其人となりを知るに是人(願(私云此記載外記載すべきあり)憶□書、深秋気味太
凄幽?)

○此伝信本着の兩人出迎し帰途とて橋本(釜)入事。また来り談■し旨

*1:閑適(かんてき)心静かに楽しむこと

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れあり、虫食いにより文字が無い等です。